Lahpai Seng Raw ラーパイ・センロー

ミャンマーで最大の市民団体であるメッタ開発財団の創始者、前所長。カチン族出身。ヤンゴン大卒。1990年から7年間バンコクに滞在し、カチン独立機構人道支援部門のプログラム・オフィサーとして、女性、若者、子供の社会福祉向上に取り組む。国境地帯の少数民族を対象に、所得創出のための活動や幼稚園の設置・運営に尽力したほか、若者がタイやインドの職業訓練学校で学ぶ機会を提供した。1990年代に軍事政権と少数民族武装勢力との間で停戦合意が進むと、1997年、国内避難民や難民の支援のためにミャンマーに帰国し、同年メッタ開発財団を設立。国内の紛争地域や自然災害の被災地にて支援活動を行う同財団は、多様な利害関係者とともに活動に取り組むことで、幅広い支持を得るNGOに成長する。2011年9月に所長職を辞し、現在は、紛争の原因や和平後退の要因に関する啓蒙活動に取り組んでいる。メッタ開発財団、シャロム財団（ローカルNGO）、ミャンマーのスイスエイドの理事を兼任。長年にわたる市民活動特にカチン州の平和構築に取り組んできた業績を評価され、2013年の夏にアジアのノーベル賞と誉れ高いマグサイサイ賞を受賞した。

アジアのノーベル賞、マグサイサイ賞受賞者による講演会を開催します

ミャンマーの未来を拓く

～すべての人々に平和と恩恵を～

ラーパイ・センロー［メッタ開発財団創始者・前所長］

モデレーター：根本 敬（上智大学教授）

軍政から「民政」へと舵を切り、間もなく3年を迎えるミャンマー。そのゆくえを、世界は高い関心を持って見守っています。憲法改正少数民族問題、宗教間対立など、真の民主化に向けての道のりはまだ険しく、国際社会の関心と支援が引き続き重要です。同時に過去にたびたび大きな犠牲を払いながらも、よりよい未来を信じて平和な社会を希求してきた市井の人々の努力は、今後の国づくりにますます欠かせない要素となっていくでしょう。本講演ではカチン族でキリスト教徒、そして女性という社会的立場に身をおきながら、長年にわたって軍政、反政府勢力双方との協働を模索し、武力紛争や自然災害によって傷ついたコミュニティの再生に取り組んできたラーパイ・センロー氏を日本にお招きして、その貴重な経験についてお話を伺います。厳しい状況下において彼女の活動を支えた原動力は何であったのか、また、現在の政治・社会的変化にみる希望と課題についても語っていただきます。

2014年3月12日（水） 午後3時～5時（2時30分会場）

会費：無料（要予約） 英語 / 日本語（同時通訳付き）

会　　場：国際交流基金2階JFICホール「さくら」（東京都新宿区四谷4-4-1）

ご 予 約：お名前（ふりがな）/ 所属 / 住所 / 電話番号を明記の上、電子メールかファックスで、以下の宛先までお申し込みください。
定員（100名）に達し次第、受付を締め切ります。

宛先（件名）：JFミャンマー講演会
E-mail: jfmyanmar@jpf.go.jp　Fax: 03-5369-6041
※ご記入いただく個人情報は、本講演の実施目的のみに使用いたします。

東京メトロ丸ノ内線 四谷三丁目駅 1番出口から新宿方面に徒歩3分

［お問合せ］

JAPANFOUNDATION 国際交流基金 日本研究・知的交流部アジア・大洋州チーム Tel: 03-5369-6070 / Fax: 03-5369-6041